

「太陽地球圏環境予測」緊急ワークショップ
～3月17日の宇宙嵐を我々は予測できたか？～

本年3月17日に強い磁気嵐が発生し、世界各地で激しいオーロラと様々な擾乱現象が観測されました。この磁気嵐は同15日の太陽フレアに伴うコロナ質量放出が地球に到達したため発生したと考えられていますが、磁気嵐の強度も地球への到達速度も当初の予測を遥かに上回るものであったことが分かってきました。本ワークショップでは「予測」の観点から、このイベントに焦点を当て、太陽・太陽風・磁気圏・電離圏及び宇宙天気予報の専門家による包括的な議論を通して、「なぜ今回のイベントを正確に予測できなかったのか?」、「太陽地球圏環境を突発的に激しく乱す宇宙嵐を正しく予測するために、今我々は何をすべきか?」を徹底的に議論します。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

日時:2015年4月21日(火) 13:00~16:30

場所(こちらに変更されました⇒):名古屋大学ES総合館1階ESホール

キャンパスマップ <http://www.nagoya-u.ac.jp/access-map/index.html> のC2④

13:00-13:05 はじめに: 草野完也(名古屋大学)

13:05-13:20 各国の予報と社会影響: 石井守(NICT)

13:20-13:40 太陽活動領域の磁場構造とフレアトリガ: ①伴場由美(名古屋大学)、②井上諭(名古屋大学)

13:40-14:00 太陽フレアの観測結果:

衛星観測、地上光学観測 ①浅井歩(京都大学)、②花岡庸一郎(国立天文台)

電波観測 ③久保勇樹(NICT)

14:00-14:30 太陽風とCME:

①衛星観測とモデル計算 八代誠司(CUA/NASA)、塩田大幸(名古屋大学)

②IPS 観測 徳丸宗利、伊集朝哉(名古屋大学)、

14:30-14:40 ~休憩~

14:40-15:00 太陽風パラメータと地磁気変動: ①片岡龍峰(極地研)、②上出洋介(名古屋大学)

15:00-15:10 地磁気変動・GIC: 海老原祐輔(京都大学) (代読:三好由純)

15:10-15:30 電離圏・熱圏変動: ①塩川和夫(名古屋大学)、②西谷望(名古屋大学)

15:30-15:40 宇宙放射線(放射線帯電子・SEP): 三好由純(名古屋大学)、簗島敬(JAMSTEC)

15:40-16:30 総合討論~正確な予測のために何をすべきか?~

主催:「太陽地球圏環境予測」ワークショップ企画委員会

代表: 草野完也(名古屋大学)、石井守(情報通信研究機構)、一本潔(京都大学)、

三好由純(名古屋大学)、余田成男(京都大学)

協賛: 名古屋大学太陽地球環境研究所

連絡先: 今田晋亮(名古屋大学) shinimada@stelab.nagoya-u.ac.jp

ホームページ: http://www.stelab.nagoya-u.ac.jp/jpn/news/files/2015/03/workshop_20150421.pdf